

武蔵野の森を育てる会・会報

—第4号—

平成 22 (2010) 年 5 月

武蔵野の森を育てる会

HP : <http://mnomori.web.officelive.com/default.aspx>

私たちの会は、武蔵野市公認の緑ボランティア団体です。武蔵野市緑化環境センターとの協働によって、武蔵野市立「境山野緑地」に豊かな生態系の雑木林（森）を育てることを目的としています。毎月2回の定例作業では、草刈、草取り（帰化植物）、清掃、補修、樹木管理、産物活用法の研究（竹林、椎茸、夏蜜柑、堆肥等）、植物調査、研修などを行っています。これらの活動によって、しだいに自然豊かな緑地になっているのが私たちの喜びです。活動の一端をご紹介します。

冬の雑木林の保全作業

近隣の方々に呼びかけて、地域のみなさんと一緒に雑木林の手入れを行ないました。すっかり恒例となったこの活動では、アズマネザサの刈り込み、常緑樹の間引き、落ち葉掻きなどの作業を、雑木林の爽やかな空気を味わいながら和気あいあいと行いました。



雑木林の保全作業

雑木林の自然環境の調査

境山野緑地南側部分(通称「独歩の森」)は、長期間にわたり、雑木林としての管理が行われてこなかったため、生物多様性の低下などの問題が危惧されています。そのため、本会では科学的な調査を行い、独歩の森の植生の改善策を検討してきました。



自然状況の調査



笹刈体験の大学生

青少年の環境教育

第二小学校、境保育園、日本獣医生命科学大学、都立武蔵高等学校、生活クラブ生協などと連携し、子どもたちや大学生が体験活動を通して自然を学ぶ機会を提供しました。とくに、第二小学校との間では、総合的な学習の時間を中心として、継続的に協力しています。



環境フェスタでの発表

情報発信・交流活動

「むさしの環境フェスタ」(武蔵野市環境政策課)や市民協働サロン「サロンカフェ」(同市市民協働サロン)、埼玉県で実施された学びピア協賛事業では、境山野緑地に豊かな生態系の雑木林を育てるための課題を市民の方々と共有するため、展示やスライドなどで情報発信を行いました。

広がる市民ネットワーク

近隣住民のみなさん、亜細亜大学や成蹊大学の学生ボランティア・サークル、地域の小学生など、多様な方々の参加によって活動が支えられています。昨年度は、NPO法人武蔵野市NPO・市民活動ネットワークや生活クラブ生協との連携も生まれ、森を育てるための市民ネットワークが広がりました。

ぜひと一緒に作業しましょう!

森を育てようという気持ちのある方、ぜひ一緒に作業をしましょう。予定表は境山野緑地内の掲示板に表示するとともに、ホームページに掲載します。直前に変更となることもあるので、上記の田中までご確認を。(寄付も常時受け付けています。作業用具の購入などに役立たせていただきます。)



東京都武蔵野市境 4-5

境山野緑地の北角を直り、JR中央線武蔵野駅北口より徒歩15分、武蔵野市立境山自然観察センターにアクセスしてください。

境山野緑地南側雑木林（通称「独歩の森」）の課題

境山野緑地の南側半分は、「独歩の森」とも呼ばれる古い雑木林です。ここは長い期間にわたって昔のような管理が行われなくなり、放置されてきたため、地域在来の生き物が豊かに生息できるような本来の雑木林とは異なってしまいました。そこで、適切な保全の必要があります。ここに、「独歩の森」が抱える現状の問題やこれからの課題を整理しました。

雑木林本来の姿とは

定期的な皆伐更新 定期的（7～20年くらい）に、予め決めた範囲の木を全て伐り、切り株から出た萌芽を育てて大きくすることの繰り返しによって維持されてきました。これを皆伐更新といいます。燃料（薪や炭など）として使いやすい大きさになったら伐っていたので、結果的に木の高さが一定レベルに抑えられていました。

多様な生物が生息 毎年場所を変えて順番に伐っていたので、伐った直後の草原のように明るい部分から、木が大きくなって薄暗い部分まで、様々な年齢の部分からなる多様な環境がモザイク状になっていました。こうした多様な環境に適応して、多様な生物が生息していました。

現状の問題点

地域の生物多様性の低下 「独歩の森」は約60年前から皆伐更新をしていないため、明るい部分がなくなり、環境が薄暗い部分ばかりに単純化してしまっています。

近隣住宅への圧迫 林全体の大木化によって、落ち葉、日陰、落枝などの弊害が広がっています（かつては樹高が低かったが、現在は20mを超えています）。

これからの課題

林床（林の地表面）の保護 「独歩の森」の林床（写真1）は、長年の踏圧によって裸地化し、下草の豊かな小宮公園の雑木林（写真2）との対比が顕著です。小宮公園をはじめ多くの雑木林公園では、人が歩く道としての園路を決め林床を保護しています。

皆伐更新 上記にあげた現状の問題点を解決するため、武蔵野市が設置した境山野緑地検討委員会「境山野緑地の保全と活用について（提言）」（平成19年9月）において、段階的な皆伐更新が提案されました。それを受けて、「武蔵野市緑の基本計画2008」（平成20年4月）では境山野緑地の保全を重点施策に位置づけ、「林の自然を再生させるため」に「適度な伐採を含めた更新整備」を進めるとしています。



↑写真1：境山野緑地の林床の現状

人々の立入により林床植物は衰退している。園路が決まっていないことから、せめて通行だけの利用者を一定のルートに誘導するため、落ち葉を取って道にすることを試みた。しかし、冬場の霜で結局歩けなくなること、雨が続くと川になってしまふことなどから、もはや限界である。



←写真2：皆伐更新の先行事例

武蔵野市主催で見学会を行った、東京都立小宮公園（八王子市）の例。適切に行えば、生物多様性の低下を防ぐことができ、本来の雑木林を再現できる。